

☆ 目指す子ども像
 強い子は
 ○がんばる子
 ○やさしい子
 ○元気な子



わくわく・ドキン!

3・12・1 No 9
 池内幼稚園

12月がスタートしました!

いよいよ今日から12月がスタートしました。先月は、マラソン大会、大変お世話になりました。今年も、コロナ対策で学年別に2日間に分けて時間差を設けて実施しました。幸いにも、秋晴れの下、地域の皆様の御理解と御協力を得て、予定通り行うことができました。子ども達も、本番までに何度もコースを走ってきました。当日は、保護者の皆様の温かい声援や拍手を背に受けて、元気いっぱい走り切ることができました。本当にありがとうございました。



さて、今月のクリスマス発表会もコロナの感染防止対策をして、2日間に分けて行います。日程は、以下の通り
 満3・年少⇒4日(土) / 年中・年長⇒11日(土)
 発表会当日に向けて楽しく歌や劇に取り組んでいます。見映えや出来栄よりも、何よりも子ども達が楽しく生き生きと発表することを大切にしています。

当日は、緊張して表情が硬くなったり、声が小さくなったりすることがあると思いますが、どうか温かい目で見守り応援していただきたいと思います。

インフルエンザ・コロナ・風邪に注意!

昨年は、新型コロナウイルスの流行とは逆に、インフルエンザが影を潜めましたが、今年はその反動でインフルエンザの流行が心配されます。また、新型コロナも海外では罹患者が急増し、引き続き感染の再拡大が危惧されます。海外では再拡大しています**油断大敵です!**

本園でも今月から「うがい」を始めました。時間は**遊びの後と昼食前の2回です**。その他に保育室の消毒・換気もこまめに行っています。御家庭でも、感染予防のために「うがい・手洗い」、「部屋の換気」をよろしくお願いします。



移動救急車の見学をしました!



7月の消防自動車に引き続き、先月の8日に舞鶴西消防署より「移動救急車」が園に初めて来ました。救急車の紹介が目的で、年少以上の子ども達が見学しました。



始めに、クラス毎に順番に救急車の中に入り見学させていただきました。車内には、担架の他に救命に必要な機械や器具が備えられていました。その一部を見て説明を聞いた後に、紙芝居を見せていただきました。



最後に、救急車をバックにクラス毎に記念写真を撮り、お土産にカードをいただきました。今回の見学は、救急車や救急救命隊員の仕事を知る良い機会になりました。



12月の主な行事予定

- 4(土) クリスマス発表会(満3・年少) 9:30
- 7(火) 年長個人懇談(~17日)
- 11(土) クリスマス発表会(年中・年長) 9:30
- 13(月) 振替休業日(4日・11日)
- 15(水) クリスマス会 10:00
- 18(土) マリンバ音楽会(未就園児事業) 10:00
- 20(月) コロコロ広場(未就園児事業) 10:00
- 22(水) 2学期終業式 午前中保育 早朝午後預かり
- 23(木) 冬休み預かり保育①
- 24(金) 冬休み預かり保育②
- 27(月) 冬休み預かり保育③
- 28(火) 冬休み預かり保育④
- 29(水) 冬季休業(園閉鎖 ~ 1/4)
- 1/5(水) 冬休み預かり保育⑤
- 6(木) 冬休み預かり保育⑥
- 7(金) 3学期始業式 午前中保育 早朝午後預かり
- 10(月) 成人の日
- 11(火) 通常保育開始



幼稚園でも子ども達はよく絵本を読んでいます。本を読むと、時空を飛び越えて想像の世界がどこまでも広がっていきます。安野さん本があり、本に親しんでくると本を読む癖がつくと占めたものです。子どもは「本を読む」こと「自分で考える」こと「繋がって」います。子ども達には「自分で考える」こと「繋がって」欲しいと思います。本を読むことはひとりで仕事です。競争にはなりません。他人には分かりません。けれども心の中は美しくなっています。安野さんは語っています。「読書の秋」に心に残る楽しい本との出会いがあることを願っています。



マラソン大会を通して子ども達の頃、スタートの合図の前に心臓がとび出るくらいドキドキしたのを思い出します。安野光雅(絵本作家)さんは、子どもの頃、走るのはいつもビリだったそうです。安野さん語っています。「一位になっても得意にならず、ビリになってもヘソをかくような子ではいけない。世の中は、何でも競争するようにできている。いま、一等になるために走るのではなく、いつかおとなになっても一等になっても得意にならず、ビリになってもくじけない、そんなプライドを持つ日のために走るのだ」

「勝ち負け」で一喜一憂するのではなく、その奥にもっと大切なものを見つけて欲しいと願っています。

「読書」のすすめ

幼稚園でも子ども達はよく絵本を読んでいます。本を読むと、時空を飛び越えて想像の世界がどこまでも広がっていきます。安野さん本があり、本に親しんでくると本を読む癖がつくと占めたものです。子どもは「本を読む」こと「自分で考える」こと「繋がって」います。子ども達には「自分で考える」こと「繋がって」欲しいと思います。本を読むことはひとりで仕事です。競争にはなりません。他人には分かりません。けれども心の中は美しくなっています。安野さんは語っています。「読書の秋」に心に残る楽しい本との出会いがあることを願っています。

心とまめく
 わくわくコーナー



